

児童・生徒の現状・課題

指示されたことについてはやるが、そこから自ら追究していこうとする児童は少ない。また、基本的な知識を獲得するが、その知識を別の課題解決に生かしたり、そこから湧いてくる新たな疑問に気付いたりする児童が少ない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

授業の中で学び方について児童が選択する場面を設定し、児童自身が自己の課題に応じて自己決定できるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分からすすんで計画を立てて学習している。	87.7		
②学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	90.0		

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	81.3		
②【他者受容・協調性】	87.6		

具体的な手だて①

授業や単元の初めには学習の流れや計画を示すことで見通しをもたせ、終わりでは学習したことの振り返りをさせる。

具体的な手だて②

個人では自己の課題に気付けない児童もいるので、協働的に友達と見合っって伝え合ったり、ICT機器を活用したりする。

具体的な手だて③

低学年のうちにはスモールステップで学び方を「選ぶ」という素地を作り、中学年以上では学年に応じて、積み重ねた知識をもとに「もっと知りたい。」と追究できるような選択肢を組み込んでいく。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・校内研究の体育科を中心に、選択を中心とした授業についての共通理科、検討できるようにする。
- ・児童に選択させるための教員の選択肢を各教科でどのように設定したのか、実践例を紹介し合ったり、アイデアを出し合ったりする時間を意図的に設定する。

総括(7月)**総括(1月)**